

土壌の異常還元(ワキ)を予防するきめ細かな水管理を徹底し、
初期生育を確保！

1 乾土効果、気象予報

管内では、移植作業が順調に進んでいる。
本年の乾土効果は「平年並」と推定されている(表1)。
また、仙台管区气象台の1か月予報(5月13日発表)によると、向こう1か月の気温は高い見込み。
このため、ワキを予防するきめ細かな水管理により根圏環境を整え、地力・基肥窒素の吸収を促進し、初期生育の確保を図る。

表1 乾土効果の推定値(水田農業研究所調べ)

年次	乾土効果	発現量の推定値 (kgN/10a)
本年	平年並	2.6
前年	小さい	0.6
一昨年	小さい	0.5

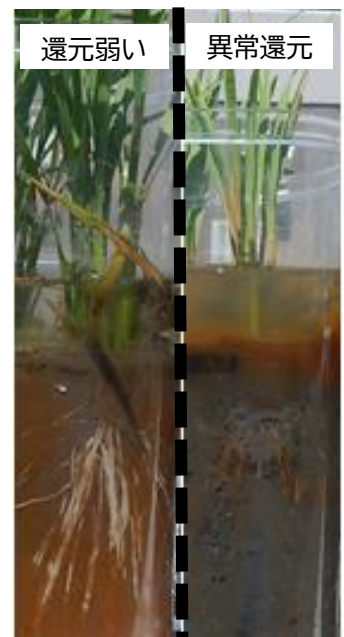
2 移植後のきめ細かな水管理で分けつ促進

- 移植後
 - ・活着するまで水深4～5cm程度に湛水する。【苗の保護、新根の発生促進】
- 活着後
 - ・水深2～3cmの浅水管理とし、地水温を高める。【分けつの発生促進】
 - また、日中止水・夜間入水とする。
- 強風や低温が続くときは、やや深めの水深(4～5cm程度)とする。【苗の保護】
- 除草剤散布後は7日間止水し、落水・かけ流しはしない。【防除効果促進、薬剤の流出防止】

3 土壌の異常還元(ワキ)を予防する水管理で、初期生育を促進

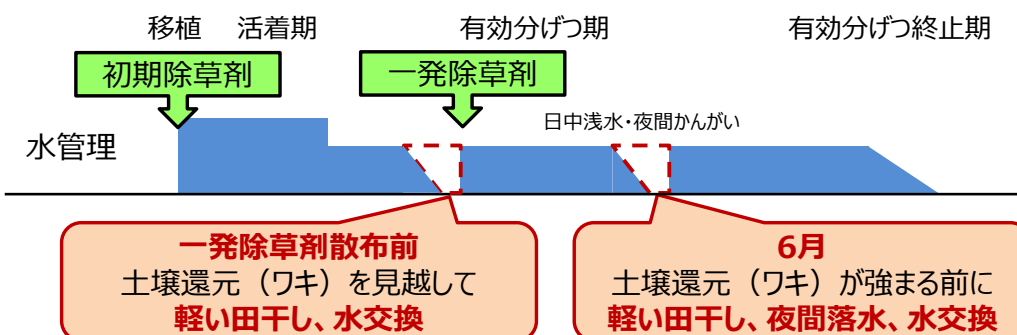
湛水条件では土壌還元が徐々に進行する。特に、高温・多照の日が続くと、ワキにより根の生育が阻害され、分けつの発生が抑制される。下記の予防・対策を積極的に行い、生育を促進する。

異常還元による根の伸長抑制
(R2年ポット栽培、移植20日後)



○予防策：一発処理除草剤散布前の水交換

一発処理除草剤散布後は、少なくとも7日間湛水状態を保つ必要があるが、その間にワキが進む。そのため、一発処理除草剤散布前にワキの程度を確認し、軽い田干しや水交換を行う。



○分げつ期における対策：ワキの程度に応じた水管理

「ワキ」の悪影響を回避するには、稲に異常が見え始める前の“早目の対策”が重要。

田んぼに足を踏み込んで気泡の発生状況を確認し(表2)、ワキの程度に応じて「水交換」、「夜間落水」、「田干し(2～3日程度)」を行う。



ワキが発生した圃場に足を踏み込んだ時の様子

表2 土壌還元(ワキ)の程度と対策

ワキの程度の目安	生育への影響	生育初期の対策
水田に足を踏み込むとわずかに気泡の発生がみられる	なし	—
水田に足を踏み込むと気泡の発生が多い	根の活力低下	速やかな水交換
水田に足を踏み込むと盛んに気泡を発生する	根張り不良	田干し、夜間落水

こまめに確認！ 早めの対策を！

4 効果的な除草剤の施用～ポイントは「散布時期」と「水管理」～

○散布時の水深は、剤型に応じた水深を確保する

☑粒剤:3～5cm

☑ジャンボ剤、フロアブル剤:5cm以上

○除草剤散布後1週間は、水尻を止め、必ず“止め水”とする。

水が不足した場合、“ゆっくり”足し水して、田面を露出させない。

○圃場内の雑草生育や薬剤使用基準を確認し、使用時期の範囲内で「やや早め」に散布する。

要注意！！

本年は、5月上旬の気温が平年よりもやや高く経過し、雑草の生育が早まる可能性あり。雑草が伸びすぎてしまうと、除草剤が効きにくくなるため、使用時期が遅れないようにする！

5 農薬だけに頼らない病虫害対策を

○斑点米カメムシ類対策～雑草対策の徹底が基本！～

☑農道・畦畔等の除草により、斑点米カメムシ類が生息しにくい環境をつくる。

☑圃場内の雑草の取りこぼしのないよう、効果的な除草剤の施用を行う。

○いもち病対策

☑補植終了後は、置き苗を速やかに処分する。

管内のいもち病初発は、置き苗由来となることが多い。圃場外に持ち出す等、対策を徹底する。

STOP ! 農作業事故 < 春季農作業事故防止運動 4/10～6/10 >

◎ ロータリー等の可動部を点検するときは必ずエンジンを止めて、巻き込まれ事故を防ぎましょう。

◎ トラクターの路肩からの転倒・転落に気をつけ、危険箇所は無理せず、安全走行に心がけましょう。